

1/28

大阪 総評

発行所
日本労働組合総評議会
大阪地方評議会
大阪市北区与力町2-29
電話(358)0281-5
発行人 帖佐 義行
編集人 平垣美代司

総選挙

緊急アピール

平垣 美代司 大阪総評 事務局長

断固 社会党を支持しよう!

いまの社会党勢力を守り、増やす以外に、自民党政府の反動諸政策に対決し、政治の革新を可能にすることはできない。
より多くの労働組合が総評に結集して、資本の攻撃から労働者を守る闘いを組む以外に道はないように……

佐藤首相訪米による沖繩問題を中心とする対米交渉は、実質的な合意が完了しているのに難航を宣伝するのに大わらわであった。佐藤首相の努力と力量、ニクソンの理解を強調し、選挙を有利にみちびこうとする狡猾さであろうが、ウソは見えずいている。すでにできあがったものを、演出するための訪米であった。共同声明での公表は、交渉内容の七分の一ぐらいで、大部分は秘密的取りきめという。政府がどのように宣伝しようと、すべては偽装であり、事態は沖繩一〇〇万国民の悲願をよそに進行したのである。

佐藤訪米に抗議するため一・一三政治ストライキを果敢とたたかいた日本の労働者階級に課せられた当面の緊急課題は、あらゆる手段を駆使して支配階級のウソと陰謀を、全面的に、徹底的にパクロすることである。

十二月総選挙は必至である。この選挙戦こそ、その絶好の機会である。沖繩奪還、安保廃棄をめざすわれわれの戦列のなかには、既成革新政党にあきたりない諸君もいるであろう。しかし、そのことを理由に今次政治決戦を否定したり回避するならば、主観的にはとまれ大局的には闘争の抛棄とたたかいからの逃亡を意味する。

いま日本の支配階級のなかで急激に自主防衛論が抬頭してきている。八月以来の日経連トップセミナー、自民党安保特別委の責任者船田の私案発表、国防白書などがそれである。

日経連総会(十月六日)における松田代表常任理事の発言は、さらに一步をすすめる憲法改悪の意図をムキだしにしめた。かれは憲法第九条「戦争放棄」は誤訳であるとまでいっている。

松江市での一日内閣で「こんごアジアの安定の主役は日本であり、米国はその協力者である」とのべた佐藤首相の発言は、日本帝国主義のアジア再侵出の野望を露骨にしめし、そのための自主防衛論であることを物語っている。つまりその第一は、これまでのアメリカとの安全保障体制を基調とした国防の基本方針を、ゆくゆくは自主防衛を主軸とし、日米安保体制を補完とする方向へ質的に転換しようとしていること。その第二は、日米安保体制のなかにおける日米の防衛分担が、今までの米国の主役から次第に自衛隊の主役に移行すること。第三は日米安保体制がアジアの反共軍事同盟であり、アメリカの核戦力を主軸とした同盟体制である以上、自衛隊の海外派兵と日本独自の核武装は必然であるということである。

まさに政府、自民党、財界の主張する自主防衛論こそは、沖繩の「核つき、基地の自由使用」返還を契機として日米安保条約を質的に強化し、「核安保・アジア安保」をめざすものである。

だから今日ほど強調が痛感させられるのは「非武装中立」の思想であり、憲法を貫く戦争放棄と世界平和への悲願である。おもえば非武装中立は、サンフランシスコ条約(一九五二年)反対闘争以来日本の平和運動がかかげつづけてきた背骨であり血肉であった。ときに平和三原則といい、四原則となり、社会党が分裂を賭して守りつづけてきた旗である。

当今、軍備とか武装を口にするとき、支配階級もいのように、軍備にあたいするものは「核」であり、武装とは「核武装」を意味する。だから「自主防衛」や「再武装」「再軍備」を唱えるものには、被爆の唯一の体験をもつ日本人は、人類の存亡、人道の名において、その徹底的抵抗を決意し、よびかけなければなら

ないのである。今次総選挙はこのような情勢下でたたかわれ、対決点は「核」であり、民族の将来、アジア、世界の平和にかかわる。

いま民主陣営内に、革新の仮面をかぶった妖怪がうごめいている。その妖怪は、自らを神聖不可侵とし、口を開けば「統一戦線」といい、学生、反戦青年委を「トロ」よばわりし、自らの利益のためなら「悪法」を駆使してでもやたらと「告訴」を好む。

またかれらは「万国博」には反対せず、「沖繩に對置して北方領土問題」をもちだし、「総評主権の一〇・二一」に反対し、「一・一三政治スト」を挑発としてののしる。

たたかいを忘れ戦列から脱落し、はやくから物量と人足を動員して、選挙の票あつめに狂奔することは勝手としても、この妖怪を許せないのはつぎの点である。それはかれらが当今強調する改憲、自主防衛論である。その機関紙から原文のまま抜粋しよう。

「日本は非武装でいくべきかどうかという問題では独立の主権国家にふさわしく自衛手段をもつべきであるとかんがえている。それには国民の総意にもとずいて、現在の憲法に対しても必要な措置をとることが必要となってくるであろう。」

ここまで墮落すればこの妖怪は、いまや利敵行為に狂奔する裏切り者、階級敵とよばれても仕方があるまい。

大阪の労働者の諸君、日本の労働者のみなさん、

民社党がはやくから、なりふりかまわず第二自民党の役割を果たしていることは、多くの説明を必要としない。自民党様といつてしまえば面はゆい連中か、その名から社会主義を多少ともふまえていると思っている鈍感な人びとだけが、しばらくふらつくであろうが、きびしい情勢のなかではやがて消されていくことは歴史の必然である。

さて現在の社会党は立派か。私は古い社会党員であるが、残念ながらイエスとはいえない。とりわけ最近の中央の指導部の動揺は、労働者の不信を買っている。しかし民族の悲願である「非武装中立」の旗を、ふまれてもタタかれてもかかげつづけてきたのは社会党ただ一つである。

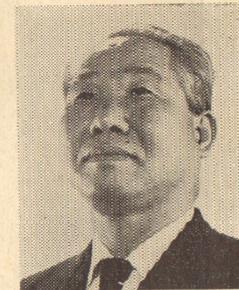
数のおおい社会党員の中には、誘惑に負け清潔を唯一の身上とする党の名譽を汚した議員もいた。けれどもこの党をきよめ、若く、強くする以外に、日本の労働者階級の活路は、解放はあるだろうか。

今次総選挙にのぞむ社会党には悪条件が山積している。まさに満身創痍で「日本のすすむべき道」をよるめきながらさしめしている「老いたる戦士」ににている。社会党のこの現状は、革新陣営の一政党としての社会党だけの姿であろうか。

私は、これはそのまま日本の労働運動の主流とうたわれてきた総評の現状にも共通する側面があるとおもふ。だからもし今次総選挙に社会党が敗れるならば、社会党はもとより、総評の労働運動にも、七〇年闘争にも重大な影響をもたらす。

岩井事務局長は「運動の死命を制す」といったが、私もそう思う。

大阪総評はこの人を推薦する!

<p>大阪6区 椿 繁夫</p>  <p>○社会党・新人候補。59才。 ○大正13年から労働運動に参加。○昭和12年、大阪市議員に当選したが、13年に「人民戦線事件」で検挙される。○戦後いち早く、労組を再建日本社会党の創立に参画、22年、総同盟大阪連合会主事。○25年、参議院議員全国区に当選し、43年まで三選。この間参院議員会長に就任、43年参院地方区にて惜敗。○昭和25年、総評結成に尽力し、26年、全国金属中央執行委員長に就任、現在にいたる。</p>	<p>大阪5区 肥田 次郎</p>  <p>○社会党・前議員。59才。○大正9年、南海電鉄に入社、12年、労働組合を結成、全評運動に参加。○戦後、南海電鉄労組を再建、24年、私鉄関西地連副委員長となり、総評結成に努める。27年南海労組委員長、30年から私鉄関西地連委員長に就任。○昭和35年衆議院議員に当選、二期つとめたが、42年総選挙で次点。○現在、社会党府本部統制委員長。私鉄総連顧問。日本農民組合大阪府連の顧問なども兼任。</p>	<p>大阪4区 木下 正治</p>  <p>○社会党・新人候補。54才。○昭和8年、大阪市電気局に就職、翌年同労働組合に入り青年部長。昭和20年、大阪交通労組を再建、30年、執行委員長、市労連執行委員長、日本都市交通労連関西本部執行委員長、大阪公務員共闘議長に就任、現在にいたる。○25年以後、社会党大阪府本執行委党中央委員。現在、河内長野総支部委員長。○大阪地方労働委員、大阪労済理事長、全国労済連副理事長、大阪機関紙編集者クラブ理事長などを歴任。</p>	<p>大阪4区 久保田鶴松</p>  <p>○社会党・現議員。69才。○大正6年から労働運動に入り社会主義の発展に挺身。○戦後社会党結成にも参加。26年総評結成に参画、30年全金中央本部特別執行委員、大阪地本役員となり、現在にいたる。○昭和10年、大阪府議員に当選、以来3期、22年に衆議院議員当選、以来当選九回、今日にいたる。○昭和35年に衆議院の副議長に就任したが翌年政治的暴力防止法をめぐる国会混乱の責をとって自ら辞職。</p>	<p>大阪3区 坂口 正義</p>  <p>○社会党・新人候補。45才。○昭和21年、国鉄労働組合の結成に参加、八尾地区書記長天王寺支部執行委員、28年に国鉄労組南近畿地本書記長、同執行委員長六期つとめる。○昭和26年、守口市議員に当選(2期)、38年から党守口総支部委員長、社会党中央委員、大阪三区協議会会長など歴任。○41年春閣で大阪ではじめての全電車区間ストを指導、解雇を受けている。○42年、近畿・大阪地方交通共闘会議事務局長、交通政策にとりくむ。</p>	<p>大阪3区 阪上安太郎</p>  <p>○社会党・現議員。57才。○早稲田大学在学中、オリンピックに水泳選手として二度出場。○昭和25年、高槻市長に38才で当選、大阪府市長会会長、同市長会会長など歴任。○昭和33年、衆議院議員に当選、以後四選。衆院予算委員などで活躍。○党中央執行委員、地方政治局長として地方行政問題のベテラン。党都市問題対策委員会事務局長、万国博対策委員会事務局長、社会主義理論委員会委員などで活躍している。</p>	<p>大阪2区 井岡 大治</p>  <p>○社会党・現議員。55才。○昭和4年、大阪市電気局に就職、市電自助会に入会、12年に同労働組合に加入。○戦後もっとも早く、昭和20年に大阪交通労組を再建、執行委員長になる。22年、大阪市労連執行委員長。大阪地方労働委員なども歴任。○昭和30年衆議院議員に当選、以来5選。衆院運輸理事、地方行政委員会委員として活躍。○昭和33年、党中央国民運動委事務局長、国民運動委員長、国民生活局長、外交委事務局長など歴任。</p>	<p>大阪1区 西風いさお</p>  <p>○社会党・現議員。42才。○昭和25年、大阪印刷労連書記長、26年全印総連中央執行委員長になり、三選。現在、全印総連大阪地連、大阪印刷合同労組特別執行委員。○昭和29年社会党中央本部青年部長四選。35年には社青同を結成初代の中央執行委員長となる。○37年、青年層の支持を一身に集めて、党中央執行委員になり注目された。39年社会党府本部書記長。42年、衆議院議員に当選。43年、党大阪第一区協議会議長。</p>
---	---	---	--	---	--	---	---

総評関西ブロック 共闘会議推薦候補

総評関西ブロック共闘会議は、各府県の総評が推薦している候補者を相互に推薦しあい、組合員に徹底させることを決めました。
大阪総評も、次の候補者を推薦しています。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|
| 兵庫一区 河上 民雄 (社・現) | 兵庫二区 堀 昌雄 (社・現) | 兵庫二区 土井多賀子 (社・新) | 兵庫二区 田中 武夫 (社・現) | 兵庫四区 三木 喜夫 (社・現) | 兵庫四区 前田 知克 (社・新) | 兵庫五区 伊賀 定盛 (社・現) | 京都一区 坪野 米男 (社・元) | 京都二区 柳田 秀一 (社・現) | 奈良全区 八木 一男 (社・現) | 奈良全区 森 義視 (社・現) | 和歌山一區 中谷 鉄也 (社・現) | 和歌山二区 辻原 弘市 (社・元) | 滋賀全区 後藤 俊男 (社・現) | 滋賀全区 矢尾喜三郎 (社・現) | 滋賀全区 後藤 俊男 (社・現) |
|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|